

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(5月7日～5月12日)

2021年5月17日

在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

- ルカシェンコ大統領、「主権及び憲法体制の擁護に関する」大統領令第2号に署名。(5/9)
- ルカシェンコ大統領、対独戦勝記念日祝賀式典及び国旗と国章の祝賀式典に出席。(5/9)
- ルカシェンコ大統領、プーチン露大統領と電話会談。(5/9)

【ルカシェンコ大統領動静】

●自らの任期満了前の大統領選挙実施の用意があるが、それには米国が同日に大統領選挙を実施することが条件となる旨発言。

ルカシェンコ大統領は5月7日の叙勲式典の後の記者会見で、5月5日のG7外相会合コミュニケでベラルーシ政権に対して国際監視の下で新たな、自由で公正な選挙の実施が呼びかけられたことについて問われ、要旨以下のとおり発言。

「私は彼らが求める選挙の実施に賛成である。準備はできている。米国と併行して、だ。米国人たちに(自国での)前倒し選挙実施日を決めてもらい、それと同じ日をベラルーシでの選挙実施日にしよう。」

「(昨年の米国選挙に言及し、)米国人は(当時の)現職大統領を辱めた。今に至っても、トランプ氏がツイッターで発言することすらさせない。どの口が、(ベラルーシのメディア規制に対して)マスメディアへのアクセスが云々などと言うのか。」

(5/7 大統領公式サイト)

●「主権及び憲法体制の保護に関する」大統領令第2号に署名。

同大統領令によると、暗殺、テロ行為、外部からの侵略その他の強制力を伴う行為の結果として大統領が死亡した場合、国家安全保障会議の決定に基づいて、ベラルーシ共和国領内では即座に非常事態または戦争状態が導入される。

国家安全保障会議は、非常事態または戦争状態下で適用されるべき一連の措置及び制限を定める。同措置及び制限には、移動の自由の制限、大規模

行事の禁止または制限、ストライキ実施の制限、戒厳令の設定、人及び施設の安全確保が含まれる。国家安全保障会議における会合では、首相が議長を務める。

(5/9 ベラパン通信)

●対独戦勝記念日祝賀式典に出席。

勝利広場で実施された式典において、ルカシェンコ大統領と3人の子息が記念碑に献花。

演説の中でルカシェンコ大統領は、戦争で犠牲を払った人々に感謝と敬意を表するとともに、以下のとおり協調。

「我々が(大祖国戦争の)記憶を守ろうと心を砕いているときに、侵略者の後継者たちとその協力者たちが、我々に対して軍国化や戦争礼賛だと非難するなど、信じがたいことだ。」

「彼らの正体は明らかだ。新植民地主義者たちが、世界的覇権を夢見て、国民的敵愾心を生じさせ、地球上で血みどろの紛争を増やし、若者たちに再び軍服を着せようとしているのだ。」

「彼らは、我々の祖父らの偉業と戦争に関する恐ろしい真実を忘れさせようと、あらゆることを試みている。まさにそうした理由で、ヒトラーの手先の殺人者たちと協力したことによって汚れた旗と国歌を、偉大な勝利と平和と創造のシンボルに替えて、我々に押し付けようとしているのだ。」

(5/9 大統領公式サイト)

●プーチン露大統領と電話会談。

両者は対独戦勝記念日の祝辞を相互に述べ、両

国で今後数か月間に予定されている共同行事について議論した。また、モスクワを訪問したラフモン・タジキスタン大統領とプーチン露大統領との会談を受けて、ルカシェンコ大統領とプーチン大統領は、集団安全保障条約機構(CSTO)の責任領域における状況についても議論した。

両大統領はまた、ウクライナの状況にも触れ、両国が NATO との緊密な協力を志向していることについても話が及んだ。両大統領は近い時期に直接会って両国が直面する課題について議論することで合意した。

(5/9 大統領公式サイト)

●国旗と国章の祝賀式典に出席。

ルカシェンコ大統領は演説の中で以下のとおり発言。「国家のシンボルは、独立と平和ある人生という、国民の国家的理想を反映している。」

「国家喪失の危機を目の当たりにしたベラルーシの愛国者たちが、今日において誇りをもって強く握っているのは、勝利の旗を受け継ぐ旗である。」

「懲罰部隊のファシストたちと大して変わらない、時には残虐さにおいて彼らをも凌ぐほどだった『戦士』たちが、白赤白の腕章を身に付けていたことを、大祖国戦争で戦った人達は覚えている。」

(5/9 大統領公式サイト)

【外交】

●対独戦勝記念日に際して各国からベラルーシ大統領及び国民に宛てた祝辞が接到

プーチン露大統領、ナザルバエフ初代カザフスタン大統領、アリエフ・アゼルバイジャン大統領、サルキシャン・アルメニア大統領及びパシニャン同国首相、ラフモン・タジキスタン大統領、ジャパロフ・キルギス大統領、アサド・シリア大統領らから祝辞が届いた。

(5/9 大統領公式サイト)

【経済】

●国家統計委員会、2021年4月までのインフレ率は4.6%と公表。

政府は2021年の通年のインフレ率を5%と予測しており、4か月で同予測水準にほぼ到達。

(5/9 ベラパン通信)

●ポーランド税関当局が、対ベラルーシ陸上国境で史上最大規模の密輸たばこを摘発したと発表。

ポーランドの対ベラルーシ国境近くの町テレスポルの貨物積み替えターミナルで、貨物列車の3車両から約250万箱、1,000万USD相当が摘発された。

(5/7 ベラパン通信、TUT.BY)

●ポーランド税関当局が、対ベラルーシ陸上国境で50万箱、200万ドル相当の密輸たばこを摘発。

密輸たばこはポーランド北東部ビャウイストク市の税関で、ラトビアの貨物トラックから摘発された。

(5/12 TUT.BY)

【抗議勢力の動き】

●欧州委員会のポポウスキ近隣政策・拡大交渉局長がチハノフスカヤ民主勢力代表に対して、EUの対ベラルーシ包括支援計画案を提示。

10日に実施された両者のオンライン会談で提示された計画案の内容は、経済対策のための財政支援、政治・経済改革支援から成り、国際通貨基金や世界銀行、欧州復興開発銀行その他の国際金融機関の参加を含むもの。両者は、同計画が施行されるのは(政権移行の)過渡期で、自由な選挙の実施後であることが条件となることを強調。

(5/10 ベラパン通信)

●チハノフスカヤ民主勢力代表、新たなベラルーシにおいて発足させる「国民の記憶委員会」の設立に着手。

同委員会の主要な任務は、独立国ベラルーシの成立以降の歴史上のあらゆる暗い出来事を語ること。

(5/9 ベラパン通信)

(了)